

第4回安曇野市観光振興ビジョン有識者会議 会議概要

- 1 会議名 第4回安曇野市観光振興ビジョン有識者会議
- 2 日時 令和2年8月26日 午後1時30分から 午後3時42分まで
- 3 会場 安曇野市役所本庁舎 3階 共用会議室 306
- 4 出席者 宮田弘康委員(会長)、白澤勇一委員(副会長)、降旗治喜委員、川崎克之委員、松元久委員、鶴飼博将委員、米澤章雄委員
- 5 担当課出席者 商工観光部 鎌崎部長、観光交流促進課 大竹課長、下里係長、由井係長、古畑
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 令和2年8月31日

協議事項等

【次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議
- 4 その他
- 5 閉会

【協議内容】

ビジョン基本戦略に基づく、令和2年度以降の具体的な施策提案について

(事前に委員から提出された意見をまとめた資料により進行。主要施策ごと新規提案内容や疑問的・反対の意見のあったものを中心に事務局から説明。その後、委員から追加意見を聞き協議し令和2～4年度で取り組むこと、または次期計画で取り組むことを項目ごとに確認)

主要施策1-1 自然資源の保全

【「宿泊施設のアメニティ(シャンプー、ボディソープなど)を自然に負荷をかけないものへ変更するために補助制度を創設し、「自然に優しい安曇野市」を観光客へ周知公告する」について】

委員 エコフレンドリーについては以前からずっとやってきていること。すでに消費者の間でも広がってきていることを今ここで挙げると、補助行政に期待してしまう。あえて支援する必要はない。

委員 今の意見に賛成。受益者負担でやっていくことが筋道だと思う。補助してまで施設にこういうものを用意して提供していくことは発想としては逆になるのでは。多少宿泊料が高くなっても、そういうものを利用できるということでお客さんが来てくれるのが本来のあるべき姿では。「自然に負荷をかけないものにするよう施設へ指導を強化していく」というような文言にしたらどうか。

委員 市がリーダーシップをとりエコフレンドリーなまち安曇野市、というイメージを植え付ければ補助制度も要らない。お客さんもそれを承知で来れば何の問題も生じないと思う。

会長 補助制度をどうするかという部分については検討に時間を要するため、次期計画へ入れるよう進めていきたい。

主要施策1-2 自然資源の活用

【「安曇野の自然資源である湧水池、湧水河川を活用した観光アクティビティ(カヌーやラフティング等)を企画し、アドベンチャーツーリズムの推進に努める」について】

委員 既存のアクティビティ業者、具体的に言うとカヌーやラフティングの業者を活用する考えはないか。万水川から北アルプスを眺められるあたりで楽しみながらやっているところを見ると、こちらに住んでいる人でさえ異空間に居られるような気持ちになる。山岳観光大学や山岳ガイドがあってもいいが、その前に今ある業者の活用を、と思う。

事務局 事業者をいかに連携させていくのか、安曇野全体を楽しんでもらえるようにするのか、ということで市は情報発信していく、また、観光協会です事業者同士をつなげて観光客の滞在時間を長くしていく、ということで活用させていただければと考える。

委員 ネゴシエーターが必要。行政の担当の役割ではないかと思う。

会長 このビジョン全体について言えることだが、ネゴシエーション、PRを担うのは市全体のランドマークとして観光協会が進めていくのがベターでは。市だけでなく観光協会も含めて考えていくこと。このについても、既存・新規事業者ともに推進しPRしていく部署を観光協会に持って

協 議 事 項 等

いくのがよいと考える。

主要施策2 - 2 地産地消の推進

【『市商工会、菓子組合などと連携し、安曇野産農産物や農産加工品等を活用した新たな土産品を開発し、安曇野市を代表する土産品として育成する』について】

委員 この地の農業者が観光に関心がないということが致命的だと思っている。農産物は立派な商品。安曇野市は農産物直売所の配置も無計画ではないか。1か所に絞っている池田町や松川村のほうが人は来る。売れる商品を開発しても、何か所にも分かれていれば、どこで買えるのか、ということになりかねない。基本政策が大事。農業者が、これで稼げると自信を持ってもらえるような農政の政策をたててもらいたい。

主要施策3 - 1 歴史、伝統の継承・活用

【『自然景観と歴史文化が融合した格調高いニューツーリズムを確立し、地域の人々とのふれあい等を感じる新しい滞在型観光の流れの創成を図り、その分野での国内のトップランナーを目指す』について】

委員（冊子『明科の宝』を紹介）安曇野の宝を再発掘するということで、観光側面も大切だが、市民に自分たちの身近にある宝を認識してもらおう活動も大事。まさにこの主要施策については市民への普及、周知徹底していくことだと思う。

会長 地域の皆さんにとっては歴史が宝物。また、その歴史を探訪するお客さんを受け入れることが外貨を稼ぐことにもなる。

委員 さきほど話に出た農業者も含めて、観光客に地元の良さを伝えないという人は少ないと思う。地元の人々の自尊心をくすぐることが大事。

委員 ここに住む人が地元の情報を知り、地元の魅力があることに気づいてもらい、人に尋ねられたときにすすめる状態がベストだと考える。仕掛けをしたり、地元の人に知ってもらうしくみや機会を。紹介された冊子のような類についてはホームページ上で、できればPDFではなくウェブページにして公開してほしい。スマートフォン利用者も多いなか、これだけの良い資料を多くの方に見ていただけるようにして有効活用を。

委員 市が関係する資料でも図書館に入っていないことがある。図書館に行けば見られるようにしたうえでネット配信などしてほしい。

【観光基盤整備について】

事務局 内容が多岐にわたるが各戦略の下支えという意味もあるので、これは、というものについて皆さんのご意見をいただきたい。

会長 基盤があつてのビジョンと考えているので、基盤の整備は当たり前だと思う。このことをここで協議する必要はあるか。

委員 協議する必要はあると思う。たとえばDMOについて。今ビジョンで欠落している部分、どこが司令塔になるか、戦略にどのように落とし込んでいくか、の役割などはまさにDMOに該当する組織のこと。DMOのコンセプトは観光地域づくり。観光業者の立場からすると観光のための地域づくりになるが、住民からすると地域づくりのために観光を役立てる、とスタンスが違ってくる。これを調整しながらやっていくことでお互いより良い成果が得られるのがDMOの理念。今回の検討のなかで不十分だと思うのは、行政や観光協会から見た戦略であり、それぞれができる範囲のなかで組み立てられているため、民間が行っていることについては少し脇におかれているようになっていること。それをもう少し糾合していくこと、PRなどの支援をしていくこともビジョンの戦略のひとつではないかと考える。基盤整備としてDMOを検討するのは重要なこと。コロナ禍の今、考えて準備しておく必要があるのでは。

副会長 令和2～4年度までにやることとして協議すると、たとえばDMOについても4年度までに立ち上げなければいけないということになるので、いただいた意見を踏まえて令和5年度以降に検討していく方向でいいと思う。ただし意見のなかで具現化していることを精査していく準備作業については今進めて行っている。今年度のなかでは厳しいと思うので、事務局で熟慮され来年度の会議の議題としていただければ。

事務局 次回までに検討させていただきたい。

（協議終了）

会議概要は、原則として公開します。

会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。